

未来への協働

ニュースレター No.3

<https://kyodomirai.org>



2025年4月1日(火)

発行 未来への協働

〒 577-0023

大阪府東大阪市荒本 2 - 14 - 5

電話／FAX (06) 4306 - 3512

郵便振替 00940 - 8 - 213061

Email : miraihenokyodo@gmail.com

毎月 1 日発行 頒価 200 円 (送料別)



「原発事故はいのち・生活・生業を奪う」 原発の危険性を訴えて神戸・元町の繁華街をデモ=3月9日、神戸市中央区

地震大国で原発運転は許されない

「原発事故はいのち・生活・生業（なりわい）を奪う」集会が開かれた（3月9日、神戸市内、100人余）。「地震と原発—私が原発をとめた理由」を樋口英明さん（元福井地裁裁判長）、「今は私のこと、やがてはあなたのこと」を菅野みづえさん（福島原発事故避難者）が話した。樋口さんは福井地裁の裁判長として「大飯原発3、4号機の運転差止め判決」（2014年5月21日）、「高浜原発3、4号機の運転差止め仮処分決定」（15年4月14日）を下した。集会後、神戸・元町の繁華街をデモ行進し、原発の危険を訴えた。

樋口さんは「昨年の石川県奥能登地震。珠洲原発が建設されなくて本当に良かった。建設されていれば、どれだけ大きな被害が出たか」と話した。人間が管理できなくなった原発事故の被害は、想像を絶するほど

大きい。原発にコスト論は通用しない。東電の年間利益は2500億円だが、福島原発事故では25兆円の損害がでた。

樋口さんが裁判で原発を止めた理由は明快だ。「過酷事故は甚大な被害をもたらすため、高度の安全性が確保されなければならないが、地震大国であるにもかかわらず日本の原発の耐震性は極めて低い。したがって原発の運転は許されない」のである。南海トラフ地震が予測されるなかで原発を動かすのは、「明日大雨が降ります、だけど傘はいりません。なぜですか。あなたの周りだけは降りません」というような議論をしているに過ぎないのである。

避難者の菅野さんは、「避難することは闘い、若い人の命を守らなければ」と訴えた。

石川一雄さんの無念を晴らそう

部落差別による冤罪 狹山事件の再審実現へ



石川一雄さんを追悼して＝JR大阪駅前、3月15日

3月11日、石川一雄さんの訃報が届きました。「無罪を勝ち取るまで両親の墓参りはしない」とたたかひぬいた石川さんはどれほど無念だったでしょう。

15日正午、「狭山事件の再審を実現しよう 市民の集い実行委員会」がよびかけ、大阪駅前人民広場で緊

急行動が行われました。関西一円はもとより、島根県や三重県などからも駆けつけ100人を越えました。

黙とうをしたあと、参加者が次々とマイクをとり、石川さんの死を悼み、無念、口惜しさ、怒り、悲しみをかみしめながら、道行く人に「石川さんは無実。部落差別による冤罪であり、一日も早く再審を」、「石川さんが死ぬのを待っていたとしか思えない検察や裁判所の姿勢こそ部落差別そのもの」と怒りをこめて訴えました。

参加者の中には、第1回の狭山現地調査に参加したという89歳の女性もいました。スウィング・マサさんによる「不屈」のサックス演奏もあり、みんなで「狭山差別裁判打ち碎こう」を歌い、石川さんの遺志を引き継ぎ、再審を実現し、無罪を勝ち取ろうと心を新たにしました。(落)

差別をなくす責任は誰に

第9回狭山事件の再審を実現しよう 市民のつどい in 関西

「第9回狭山事件の再審を実現しよう 市民のつどい in 関西」が開かれた。(2月24日、大阪市内)。上川多美さん(BURAKU HERITAGE運営メンバー)と山田哲生さん(部落解放同盟兵庫県連・狭山闘争本部長)が対談、徳田靖之さん(菊池事件弁護団)らが、アピールを行なった。

「マジョリティ(多数者)特権」を問う

部落差別についてよく聞かされる「素朴な疑問」「知らなければ差別しようがない」のか。知らないからこそ差別、知らなくてもできる差別がある。マジョリティの特権、マジョリティ側にいることで努力しなくても得ることのできる優位性。誰もがマジョリティ性とマイノリティ性を持っている。

石川准著『見えるものと見えないもの』に書かれている。「すでに配慮されている人々と、いまだに配慮されていない人々」がいる。多数者の配慮は当然のこととされ、対照的に少数者への配慮は、特別なこととして可視化される。「マジョリティ特権」は、社会が



石川一雄さん、早智子さんのビデオメッセージ＝2月24日

つくり出している。社会の中で優位な立場にあるマジョリティが動けば、社会は変わりやすい。マジョリティ特権を持ったまま、何もしないことは差別を温存している社会に加担することだ。

差別をなくす責任は、マジョリティにある。マジョリティが関心をもたない、学ばない、解決に動かないことで部落差別は再生産され続ける。部落差別をなくすための責任は、マジョリティ側にある。

石川一雄さんを逮捕したのは警察であり、部落差別を温存し続けた社会が、それを支えた。再審を決定しない裁判所、許しているのは問題に興味を持たない、

動かない、無視し続けるマジョリティたち。狭山事件の再審が実現しない問題にも、社会を構成している私たち一人ひとりが、マジョリティ側として当事者であることを押さえなければ…。

上川さんは、「差別がある社会の中、自分がどの立場について何をするべきなのか、それを考え、実践していくための物差しがマジョリティの特権だと思う。関係ないという人はいない。マイクロアグレッションという概念がある。見えないくらい細かく、生活の中に紛れ込んでいる差別や偏見のこと。加害者側は、自分が差別をしていると認識していないことが多い。被害を受けた側が説明を求められる。辛さを辛さとして受け取ってもらえないことの苦しさが、マイノリティにある」と話した。

狭山と再審法改正制定に全力あげる

3月11日、石川一雄さんが「再審に臨むことなく」亡くなってしまった。無念の想いを禁じ得ない。2月集会へ「今年こそ再審開始に向け、事実調べと鑑定人尋問をしたい」とメッセージを発した石川さんこそ、最も無念だっただろう。

えん罪は、国家による最大の人権侵害である。袴田事件は1966年に事件発生、1980年死刑確定から再審を請求し、無罪判決、確定まで58年かかった。大崎事件は1979年事件発生、1981年に有罪確定。再審を請求し、今年2月、最高裁が再審を却下、弁護団は5回目の再審請求を行なっている。狭山事件は1963年に発生。1977年の無期懲役確定から、再審が請求されてきた。いまだ認められていない。

えん罪は国家による人権侵害

国会の法制審議会で超党派による「再審法の改正」が諮問されている。無実の人が誤った捜査・裁判により自由を奪われ、仕事、家庭を失う。人生や生命までも奪われる。えん罪被害者は、速やかに救済されなければならない。再審は刑事訴訟法で定められた「えん罪被害者を救う制度」だが、1948年刑訴法が制定されたまま変えられていない。

再審を阻んでいるのはなにか。裁判で有罪が確定した人が再審を申し立てると裁判所は非公開で審理し、無罪とすべき理由があれば「再審開始」を判断する。再審が確定すれば公開の法廷で裁判がやり直される。その際、「捜査機関がすべての証拠を開示すること」「再審開始決定に対する検察による不服申立てを禁止する

こと」(不服があれば再審公判で主張すればよい)。「再審手続を整備しルールをつくる」ことが重要だ。

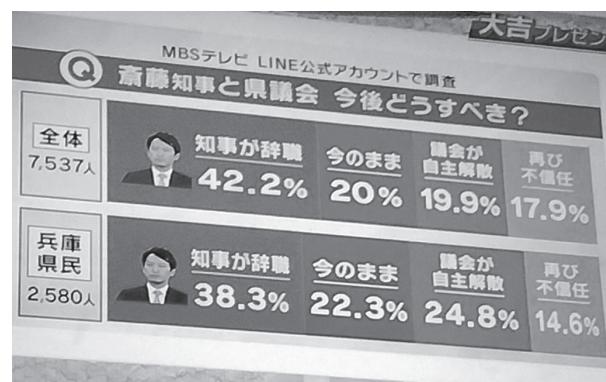
再審法を改正させるため

「えん罪被害者のための再審法改正を早期に実現する議員連盟(再審法改正議連)」が超党派で構成されている(1月7日現在、363人)。2月26日に総会を開き、国会に再審法改正法案を提出し、成立を目指す方針を確認した。3月14日、鈴木馨裕法務大臣は「再審法の見直し」について3月28日に、法制審議会に諮問することを明らかにした。

再審法改正の動きは高まっている。全国の地方議会でも、「国に再審法改正を求める意見書」採択が進んでいる。意見書を採択した地方議会は19道府県、249市、189町、46村、2区の505議会(2024年12月現在)となっている。道府県では北海道、岩手、宮城、群馬、栃木、山梨、長野、静岡、愛知、岐阜、三重、石川、福井、大阪、京都、滋賀、奈良、和歌山、岡山、佐賀が採択している。関西では兵庫のみが未採択だ。兵庫、全国で再審法改正意見書採択を広げたい。(庄)

OPINION 混乱する兵庫県政

民主主義と人権の回復は喫緊の課題



兵庫県の元西播磨県民局長(故人)が斎藤元彦知事のパワハラ疑惑など7項目をあげた告発文書問題について、3月4日の百条委員会の報告書に統いて、第三者委員会が調査結果を公表した(3月19日)。斎藤知事による職員へのパワハラがあったとし、告発内容を調べずに作成者捜しをしたことなどが公益通報者保護法に照らして「違法」と認定。作成・配布したことを理由に元西播磨県民局長を懲戒処分にしたのは「裁

量権を逸脱し、明らかに違法で無効」と県の対応を厳しく批判した。これに対して、斎藤知事は「これまで会見で述べてきたとおり」と自説を繰り返した。

斎藤、立花孝志、維新による県知事選や百条委員会における「違法極まる連携」事件も深刻だ。世間は、今回の知事選を「2馬力選挙」と揶揄しているが、実際は「3～4馬力選挙」である。敗北した稻村候補は、「斎藤候補と、というより得体の知れない何かとたたかっているような気がした」と語っていた。本来の選挙では考えられない、不当不正な力がかけられていたということだ。

維新の吉村大阪府知事は、不正にかかわった岸口、増山、白井県議らについて「気持ちは解るがルール違反だ」とコメントしたが、犠牲者も出ている深刻な事態に対して「気持ちはわかる」とはいかなる意味か。また、軽々に「ルール違反」と片づけられる問題でもない。吉村知事の発言は、組織の長としてはあまりにも無責任と言わざるを得ない。

そもそも、これら一連の騒動は斎藤知事の「うそ八百、公務員失格」という、それこそ「うそ八百」から始まったことを忘れるわけにはいかない。

closeup

私たちは核艦船を拒む 非核方式、条例制定を全国で



神戸港（写真）に入港するには非核証明書が必要だ

「核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議（非核神戸方式）」を、神戸市議会が全会一致で可決（1975年3月18日）、成立してから50年になる。以来、外国艦船は「核を積載していない」という非核証明書を神戸市に提出しないと、入港できない。神戸港に入港を求める外国艦船が神戸市に入港を連絡

すると、神戸市は「核を積んでいない」証明書の提出を求める。提出されると「着岸バースを指定する」手続きが行われ、入港できる。

フランス、イタリア、インドなどの艦船が証明書を提出し入港したことがあるが、米海軍は「積んでいる、積んでいない」を明らかにしたくないため、提出しない。結果、戦後占領期以降も第6突堤（米軍専用6突）に入港してきた米艦船は、1隻も入港できなくなった。2001年8月、これを突き崩そうと米軍はミサイル巡洋艦ビンセンスの入港を求め、大使館や領事館からも市、市議会、港湾労組などへ「圧力」をかけてきた。市民や市民運動は、ポートターミナルなどの岸壁で反対集会やデモを展開した。ビンセンスは入港を断念し、県が管理する姫路港へ入ることになったが、抗議行動は姫路港でも行われた。

非核条例を考える全国の集い

50周年を前に、「非核神戸方式を今こそ全国へ～非核条例を考える集い」が開かれ、浜恵介さん（立教大講師）、新倉裕史さん（ヨコスカ平和船団）、栗原富夫さん（神戸市議）他から、神戸方式の経緯や今後などを考える報告があった（3月15日、神戸市内）。

非核神戸方式は70年代、米軍埠頭（6突）の返還要求や反基地闘争の高まり、全国的に革新首長が誕生し、神戸市では社会党系の革新市長が続いていたなか、自民党も相乗りし「全会一致」成立した。

その後、国会での質疑にも挙がったが、「地方自治の本旨に基づき行っている。中央政府がとやかく言うべきでない」（84年、中曾根首相）と答弁。「国の外交事務の処理が、地方公共団体によって妨げられることはあってはならない」（87年、外務省）（99年、小渕首相答弁）という対応となっている。

高知、北海道や沖縄も

99年には、橋本大二郎・高知県知事（当時）が「非核神戸方式条例」による港湾条例を提起したが、自民党の反対により断念した。北海道函館市で「非核・平和函館市民条例の制定を求める署名（2万5千筆）」が提出され「継続審議」に（2002年、2票差で否決）。苫小牧市では、市民が市議選候補者に「非核平和条例の制定」アンケートを示し、8割の賛同を得た（2002年）。それを受け、市長が制定の意向を表明し、非核平和都市条例が制定された。子どもたちに伝えるため、やさしく解説した副読本も作られた。

沖縄県石垣市は条例を模索しながら、「石垣市平和港湾宣言」を決議している。宣言には「わが国は唯一の核被爆国として、また平和憲法の精神からも、国内唯一の地上戦で悲惨を極めた沖縄戦の悲劇を絶対に繰り返させてはならない。石垣港は、わが国の南の玄関として地域経済の振興、市民の生活安定に重要な役割を果たしてきた。平和のもとで諸活動が保障されてきたからに他ならない」と謳っている。2008年、市長の反対を無視し米軍艦艇が石垣港に入港した。その後、右派系の市長が当選している。南西諸島への自衛隊配備も強行されてきた。

港を戦争に使わせない

90年代後半からは、新安保ガイドラインや周辺事態法などが実施され、2014年、15年には安倍政権により「(米軍と一緒に)集団的自衛権行使」「安保関連法」が成立させられた。集会では非核神戸方式を「どのように広げられるか」など、報告や議論が行われた。「非核証明の提出は求めないが、外務省と当該国在外公館に核兵器搭載の有無を照会する」という

“準非核神戸方式”も検討されているようだが、「港湾軍事使用に一定のブレーキをかける」「非核神戸方式を骨抜きにしている」など積極的な評価と消極的な評価に分かれている。神戸市は、「市議会の決議を尊重し資料提出を求めている。法的には何の拘束力もないのではないかと認識(市の姿勢)」しているとも言っている。

非核神戸方式の背景には港湾法の存在があることが見逃せない。「港湾法は、戦後の民主法の第1号と言われている。戦前、重要港湾は国が管理し軍港や出兵に使われ、侵略戦争への出撃拠点になった。その反省から、重要港湾はそれぞれ地方自治体が管理し、国家利用されることを排除すると明確に謳っている。自治体、住民に管理権がある。神戸方式は、この港湾管理権を最大限に活用している」(栗原富夫・市議の寄稿／『未来への協働』2023年3月)。

「市民の運動が非核神戸方式を守らせている」という認識を新たに、「発足50年」を機に全国へ粘り強く発信し、拡げていくことが求められる。(博)※集会資料等を参照しました。

(焦点)

21世紀のコメ騒動を!

「コメがない」「コメが高額で買えない」が、庶民の声である。それにたいして政府の答弁(弁解)は流通原因説に絞られており、全く納得がいかない。江藤農水相がテレビで声をひそめて「誰かが買い占めている」と語るも、ウソとゴマカシ、責任逃れそのものである。備蓄米放出では全く解決しない。流通問題が本質ではなく、「コメが絶対的に不足」という国の農政の破綻が真相である。

数字で見ていこう

昨年6月末まで1年間のコメの需要量は705万トン。それに対し前年(23年産)の収穫量は661万トンで44万トンも不足。需要に供給が追いつかず、この時点での備蓄米の放出が検討されてもおかしくない異常事態だった。この10年間の推移を見れば、2013年では、需要量が781万トン、生産量は821万トンと生産量が多くなっているが、自民党の一貫した農業政策(減反)が統一すれば、数年後の異常事態は十分に予測できたわけであり、抜本的な農政の転



換が求められていたのである。

「異常気象続きで生育がうまくいかない」「円安で輸入肥料が高騰している」「農家の離農が増えて耕作放棄地拡大」「コメ農家がどれだけ困っているか。年間所得1万円、時給10円で誰が稻作農業を続けられるか」「未来が見えない。断絶しかない」と農家の人们は訴えている。

実際、2000年に174万戸あった稻作農家は2020年には69万戸と105万戸減少している。これはこの20年で4割以下になったということである。政府の減反政策と低米価強要(生産コストが上がっても価格に反映されない)という、失政ならぬ悪政そのものの結果である。

流通を見てみよう

それでは政府が言い逃れ、責任転嫁で語る「流通」を見てみよう。

前述してきた異常事態を好機とみた一部の業者が、直接に農家に「JAよりも高値で買い付け」といった投機的な動きは厳禁している。しかしそのような動きは、現在の異常事態の結果であって、決して根本原因ではない。市場に「不足感」があるから、このような社会現象が生まれるのである。

次に流通の危機的な現実を、数十年地域の住民のコメを供給してきた地元の米穀店の状況を見てみよう。ある米穀店主は「昨夏は5キロ2500円で販売していたコメが、2月には4800円と約2倍で売らざるをえなかった」「流通量が減り、卸売価格（仕入れ値）が高額化し、在庫も例年の4分の1しか保管できなくなり、お得意先の契約も解除し、販売を断っている」とのことである。

また他店では、「在庫切れでは商売できない」と、やむなく高額のコメを仕入れて1年分を必死で在庫したと、苦渋の選択で綱渡りのような経営状況をなげく。

流通の末端の米穀店が多少の「買占め」をしたとしても、彼らに責任はない。商売が成り立たないところに追いやられているのだ。責任は政府にこそある。

政府の悪政を追及し、根本的な改革を訴えよう！

このような稻作農業破綻をまねいた政府の悪政を簡単に見てみたい。政府は2004年にコメの流通自由化を強行し、それによって小売・流通業界が農家のコメを安く買いたいたいた。「自由化」するのなら農家の赤字補償が不可欠だが、それをしないどころか、水田を畠にしたら手切れ金を渡す（畠地化促進事業、2022年）など米作を崩壊させてきた。コメの増産と農家の所得保障は早急にしなければならない。

フランスでは農業は国家の安全保障そのものと、多額の予算が農家の所得保障などに使われていると聞く。「パンをよこせ」は革命の第一のスローガンだ。

日本政府は備蓄米の放出を渋々おこなったが、この程度で解決するわけがない。政府責任をしっかりと追及し、根本的な農政改革を訴え、21世紀の「コメ騒動」にうって出よう！（当間弓子）

いまさらながら、フランス革命① ルイ16世、ロベスピエール、 そしてナポレオン

ツアードスイス旅行に行った時、モンブランをロープウェイで登る行程もあり、フランスのシャモニーに立ち寄った。7月14日だった。そう、フランス革命記念日。フランスの祝日。役所や郵便局、お店も休みのところが多かったけれど、スーパーやレストランは営業しているところもあった。

連れ合いに車いすを押してもらひながら、町をウロウロしたのだが、観光客で賑わう様子を眺めながら「国に革命記念日があるのは、カッコいいなあ」と思ったものだ。

レーニンとジャコバン主義

20代の時にロシア革命について勉強したくなり、いろいろ本を読んだ。いちばん印象に残ったのは、京都の小児科医であった松田道夫が書いた『ロシアの革命』だった。印象に残ったのは、ロシア革命を成し遂げたレーニンの「ロシア社会民主労働党は、職業革命



パリのバティーユ広場

家が指導する前衛党であらねばならない」という党建設の考え方がある。フランス革命時のジャコバン主義にあると書いてあったことだ。レーニンの『何をなすべきか』も『一步前進二歩後退』も、そういう考え方で書かれているのかと納得した。

フランス革命やジャコバン派、ロベスピエールには興味あった。関連した本は1989年の「フランス革命200周年」に、岩波ジュニア新書の『フランス革命：歴史における劇薬』を読んだけど、内容はほとんど忘れてしまった。

パリオリンピック→フランス→フランス革命。そこまでぼくは単純でない、オリンピックなんか大嫌い。

ちょうど『平家物語』を読み終えたため、次は佐藤賢一の『小説フランス革命』(全12巻)でも読むかという乗り、その下調べとして中公新書『物語フランス革命』(安達正勝著・1100円)を読んだ。今回はこの『物語フランス革命』を通して革命の流れやジャコバン派のこと、ロベスピエール、ナポレオンのことなどを紹介したい。

国家財政のひっ迫、人びとの不満

革命が勃発した1789年頃のフランスは、アメリカの独立戦争への肩入れもあり、国家財政が危機的な状態であった。人口の2%しかいない特権階級の僧侶や貴族には免税特権があり、納税義務を課せられていたブルジョワジーや農民など平民の不満が高まり、加えて不作による食料品の高騰も人々の暮らしを圧迫していたようだ。

1789年、5月5日に170年ぶりに三部会が開かれたのだが、ルイ16世は第三身分を議場に入れないようにしたために、第三身分の議員たちは「憲法制定まで解散しないことを誓った(テニスコートの誓い)。革命の口火となったバスチーユ陥落は有名だが、当時政治犯は一人も居らず、7人の囚人(有価証券偽造犯4人、精神障害者2人、放蕩息子1人)だけであったという。

バスチーユ陥落から3か月後の10月5日、約8000人のパリの女性がパン不足を王様に何とかしてほしいとベルサイユ宮殿にデモをかけたのだった(そういうえば、ロシア革命も「パンと平和」を求めた女性のデモがきっかけ)。

「国家は王のもの」という意識のルイ16世には、平民が力を持つなんてとんでもないことだった。それに宮廷関係者も、何とか王権の回復を考えていたのだった。1791年6月20日、ルイ16世一家はベルギー(当時ベルギーは、マリーアントワネットの実家ハプスブルク家の領土)のモンメディへ逃亡を図ったが、ヴァレンヌという所で捕まってしまう。

この事件でルイ16世は一挙に国民の信用を失い、「王政を廃止せよ!」の声が全土に沸き起つた。しかし、革命指導者の1人であったバルナーブの尽力で王政は当面維持されるようになった。そして、9月3日。「1791年憲法」が採択され、フランスは立憲君主制国家になった。開明貴族や上層ブルジョワジーは、革命の終了を願ったのだった。

世の中の動きというのは、常に作用があれば反作用

が生じる。当時ヨーロッパの国々は、ハプスブルク家をはじめとして王家が支配する国が多く、当然フランスに敵対してくる。その頃の立法議会は、稳健派のジロンド派が内閣を握っていた。1792年4月、オーストリアに宣戦を布告、対ヨーロッパ戦争に突入するのである。外国の軍隊と呼応する国内の反革命集団に対する警戒心から、革命闘争は先鋭化していく。

ルイ16世にしてみれば、共和制よりも王制のほうがいい。革命に敵対的な僧侶を外国に追放する法案と、地方から2万人の国民衛兵隊を集めパリに駐屯させる法案に拒否権を発動してしまう。

6月24日、パリの民衆がチュイルリー宮殿に乱入。7月プロシア軍がフランス国境に迫る中、国会は「祖国は危機にあり!」と宣言。マルセイユから来た連盟兵団が革命歌(ラ・マルセイエーズ)を唄いながらパリに入った。ここで余談。社会主義・共産主義・労働運動のシンボル赤旗は、このラ・マルセイエーズの歌詞から来ているのではないかと思う。

ついに8月10日、パリの民衆は連盟兵団と共にイスラエル人傭兵部隊と銃撃戦を展開、チュイルリー宮殿を制圧した。国会は、「王権の停止」を宣言。国王一家はタンブル塔に幽閉された。(こじま・みちお)

おすすめ動画散歩

仕事に使えるタイガース情報 「阪神情報局」

人付き合いから「最低限の時間コスト」でタイガース情報を抑えておきたい人もいるはず。そうした方にとって、この『阪



神情報局』はおすすめです。特徴は、客観的数据に基づいて阪神選手を褒めている。無駄なアオリがない。故障者や2軍で調整している選手の情報も多い。負けが込んでいても、各試合のポジティブ要素を拾い上げ、阪神ファンにやさしく声掛け…。古いファンほど、不振のときに選手にドギツイことを言ってしまう傾向がありますが、そうした場面で「でも、こういう面もあるんですよ」と、多様な切り返しの材料があるのもありがたい。「持続可能なタイガースファンのあるべき姿」を追求している点でも、いろいろ勉強になるサイトです。(小柳太郎)

関生京都3事件 完全無罪 京都地裁で画期的な判決 2月26日



2月26日、京都地裁で、関生京都3事件（ベスト・ライナー事件、近畿生コン事件、加茂生コン事件）の判決で京都地裁第2刑事部（川上宏裁判長）は懲役10年を求刑されていた全日建関西生コン支

部の湯川委員長と武前委員長に無罪を言い渡した。

判決文では憲法28条（団結権、団体交渉権、団体行動権）や労働組合法（労働組合活動の刑事免責、民事免責）について次のように言及した。

「ストライキをはじめとする争議行為は、その性質上、労働組合が使用者に一定の圧力をかけ、その主張を貫徹することを目的とする行為であって、業務の正常な運営を阻害することは当然に予定されているものであるし、そうした意味で使用者側がストライキを避けたいと考えることは当然の前提になっている」

事実認定では検察側と弁護側に何の争いもない行為であり、憲法28条や労働組合法を前提として、当たり前の労働組合活動は無罪であるとした。

恐喝罪をでっち上げて労働組合つぶしを狙った捜査当局や検察の思惑は打ち砕かれた。今回の京都3事件の完全勝利は、関西弾圧と闘いの大きな転換点になる。

当日は朝8時半から裁判所前で約300人が支援のアピールを行った。10時過ぎ、七牟礼副委員長によって「無罪」と大書した紙が掲げられた（写真）。

歴史に逆行する トランプ政権

トランプの言動に逐一反応していたらこちらの身が持たないが、1月29日に首都ワシントン郊外で旅客機と軍用ヘリが衝突して69人が死亡した事故にかかるトランプの発言にハラワタが煮えくり返った。何かにつけて民主党批判にこじつけるトランプだが、事故原因が未解明の時点で、「事故の背景に連邦航空局（FAA）のダイバーシティ（多様性）を推進する取り組みがあった」と主張した。

「FAAがD E I（Diversity = 多様性、Equity = 公平性、Inclusion = 包括性）推進のために、重度の知的障害や精神障害を持つ人々の雇用を進めた」ことが事故の原因と決めつけ、その中には「四肢欠損、部分的な麻痺、完全な麻痺、てんかん、低身長」などの障害を持つ人々も含まれていたと述べたのだ。FAAは職員の採用は厳格な資格要件に基づいており、トランプの言っていることはまったくのデタラメだ。

ところがトランプはそんな事実はおかまいなしで、民主党のバイデン前大統領が任命した前運輸長官が、「多様性ポリシーによって運輸省を破壊した」（FAAが）重度の知的障害や精神障害を持つ

人びとの雇用を約束している」と続けたのである。こんな発言がテレビで繰り返し放送されることによって、どれだけ多くの障害者が傷ついたことだろう。

イスラエルを援助し、ガザ住民の虐殺に加担したバイデン政権にはいささかの幻想ももってはいないが、少なくともバイデン政権の下ではD E Iの取り組みが進められ、社会的・性的・民族的マイノリティに対する格差を是正する措置がとられてきた。トランプは大統領就任の初日に、大統領令でその取り組みをバッサリと切り捨て、終了させたのだ。「アメリカには男性と女性しかいない」と性的マイノリティの存在を抹殺する発言を全世界に向けて発したが、これには「性であれ、障害であれ、いろいろあって何が悪い！」と真っ向から反論したい。

すでに米国内の「不法移民」を軍用機で故国に送還したり、悪名高きキューバのグアンタナモ米軍基地に収容するよう指示したりと、トランプのやっていることは人権無視も甚だしい。トランプは自分の先祖がドイツからの移民だったことを忘れたのか。これから約4年間に何が起るのか。なんでも米国に右にならえの自民党政権の下で、性暴力への対処が再び緩くなり、女性やマイノリティへの権利保障の剥奪が企てられるのではと危惧する。こんな歴史の逆行を許すまい。声を上げよう！（想田ひろこ）

「海保の暴行」訴えを棄却 那覇地裁 国の主張を全面受け入れ



那覇地裁で千葉和夫さんの判決公判を傍聴した（3月11日）。千葉さんが参加する「辺野古ぶるー」は、辺野古大浦湾で進められている辺野古新基地建設埋立て工事に、手漕ぎのカヌーで抗議する活動を続けている。

2021年4月15日、臨時制限区域とされる海域で海上保安庁が、大馬力エンジン2基を搭載したGBと呼ばれる大きなゴムボート2艇を千葉さんの乗ったカヌーを挟み込むようにして衝突させ、千葉さんは意識不明となり救急車で運ばれた。現在も千葉さんはむち打ち症の後遺症に苦しめられている。

これに対し千葉さんは、次のように国に損害賠償請求の裁判を提訴した。①被告の行為は憲法に保障された表現の自由を著しく侵すものであり、不当である。②臨時制限区域とされる海域で海上保安官による本件停船措置には、法的根拠が存在しない。

この訴えに対し、那覇地裁は「原告の請求は棄却する。訴訟費用は原告負担とする。主文は省略する」と、わずか20秒ほどの読み上げで裁判を終わらせた。臨時制限区域とされる海域は、海上にポツンと浮かぶブイとブイを結ぶ直線内を示し、国は「この内部に入ることは刑事特別法違反だから、海保がその行動を制限する根拠がある」とする。しかし、刑特法は米軍への提供施設及び区域を定めているのであって工事中の臨時制限区域がそれにあたるかどうかは、「米軍から異議がないことをもって同意を得たものとする」と主張し、その根拠となる議事録の開示もしない。

車の接触で身体への直接衝突が無い交通事故でも、

むち打ち症が起るのは常識なのにカヌーに乗った千葉さんがGBの下に潜り込むほどの衝撃を受けても、これを「軽微な接触」とし、むち打ち症の診断書があるにもかかわらず、千葉さんの後遺症を「詐病」とさえ呼んでいる。

このでたらめな国側主張を全面的に受け入れた那覇地裁の判決は、いま危ぶまれている「司法の独立」が、沖縄では既に完全に失われていることを示している。この不当判決を決して受け入れることはできないし、たたかいへの決意を鈍らせるものでもない。

(小野純一／辺野古ぶるーHYOGO)

ウチナーとヤマトを結ぶ

10年超える海上抗議行動



大浦湾に浮かぶ作業船

新基地建設と関連工事、「代執行」で強行

かつて、国道329号線に沿って車を走らせると、キャンプ・シュワブのゲート前から先は道の両側とも緑濃い山原の森だった。イタジイやモクマオウ、ギンネムが生い茂り、所々にアカバナも咲いていた。

今その景色はない。木々は伐採され、赤土がむき出しになっている。新基地建設地に伴い、美謝川の付け替え工事が急ピッチで推し進められている。さらに昨年、新たな工事用ゲートが、以前の場所から1・5キロほど名護市内寄りに移転された。そのため、さらに膨大な樹木が切り払われた。太陽雨（ティーダアミ）が降ったあと、アオスジアゲハがよく水を吸いにやってきた、あの森は消えてしまった。伐採後の赤茶けた山肌を見ると、胸が張り裂けるようだ。

作業船で埋め尽くされた大浦湾

一方、海側の大浦湾には、20艇もの巨大な工事関連船舶がびっしりと停泊している。昨年1月10日に、沖縄防衛局の工事変更申請への県の「不承認」に対する国による「代執行」が強行された。今年1月10日には、大浦湾での工事はわずか作業船3艇が作業ヤード・鋼管杭うち・砂杭うちの準備を行っていたにすぎなかった。その後、2カ月足らずで、大浦湾は超大型作業船で埋め尽くされている。

海上抗議行動は、すでに10年を超える。抗議船と台車の傷みがひどくなってきたが、修理もままならない。カヌーでの抗議活動も、大きく制約されている。以前なら工事現場が比較的近かったので、フロート越えの抗議活動も効果が大きかった。しかし、いま行われている作業ヤードや鋼管杭うち現場は、フロートから遠く離れており声を届けるのも難しい。それでも辺野古ぶるーは、フロートを越え、果敢に作業船に向かっていく。

カヌーの千倍もの馬力のGB（海保のゴムボート）とは、比較にならない。すぐさま拘束されてしまう。しかし、拘束されてからが勝負だ。カヌーの上に立ってプラカードを掲げる者、あるいは「工事をやめなさい！」「サンゴや海が泣いているよ」と、大声で作業船に向かって抗議の声を上げつづける者。なかには拘束した海保隊員に、「作業船に近づいてほしい、カヌーの向きを変えてほしい、作業員に声をかけたいから」と依頼する者もいる。すぐに拘束されても、できることをする。抗議活動をやめるわけにはいかない。

全国から座り込み抗議、3900日

沖縄防衛局自体が、新基地建設に展望を持っているわけではない。土砂をどこから調達し運び込めるのか。90メートルもの深さにあるマヨネーズ状地盤を、どう改良できるのか、湯水のごとく使われている工事費用の増加など、困難な課題は山積している。

工事用ゲート前での座り込み抗議は、もうすぐ3900日を迎える。昨日は、北海道から6人がゲート前に来られた。「辺野古での反対行動の状況を日々追いかながら、いてもたってもいられず、やっとゲート前阻止行動に参加できた」と語ってくれた。4月からジャーナリストとして働くという大学生たちも、やって来た。阻止行動に参加しつつ、座り込み参加者にインタビューを行なっていた。



キャンプシュワブ・ゲート前の抗議行動＝2024年12月

伊豆半島西部の小さな町から、足が少し不自由な高齢の女性が1人で来られていた。辺野古を訪れる人々は途切れることはない。阻止行動に参加するために沖縄に移住して来た人も多い。国内からだけではない。韓国、アメリカなどからも、辺野古への連帯に来てくれている。辺野古の新基地阻止行動は、決して孤立した闘いではない。

県民投票で70%を超えて反対した民意、翁長、玉城二代にわたる沖縄県知事の反対を一顧だにせず強行される「国策」と「国家による暴力」の爪痕が、あのむき出しの赤土だ。（住田一郎）

日暮れて途遠し① 科学と文明は誰の手によって開拓されたのか



解体新書

先日のテレビ番組「開運！ なんでも鑑定団」で、江戸時代の医学書である『解体新書（ターヘルアナトミア）』が出品された。鑑定の結果はなんと本物で、50万円の値が付いた。今からおよそ250年前、蘭方（らんぽう）医の杉田玄白や前野良沢らが死刑囚の腑（ふ）分け（人体解剖）に立ち会った時に携えてい

たのが、ドイツ人医師が出版した「人体解剖図」（オランダ語の翻訳版）だった。杉田らはその解剖図の正確さに驚かくし、日本語に翻訳して刊行したのが『解体新書』である。その偉業をなした杉田や前野の名は歴史に残り、現代の教科書にも載っており、誰でも知っているところだ。

しかし、杉田らに実際に腑分け（人体解剖）をしてみせた人物のことは誰も知らない。それは幾十回も腑分けを行ってきた「賤民」の老人だった（『解体新書』にはその名前が記載されている）。主に東洋医学の知識しか持ち合わせていなかった当時の医師たちの頭にある人体図（※）とはまったく違う実際の人体の有様を、この老人は既に熟知していたに違いない。

話は変わるが、子どもの頃、友人が私に「大阪城は誰が建てたか知ってるか？」と聞いたことがあった。私が「太閤秀吉や」と答えると「ちがう、大工さんや」とからかわれた。あれから何十年たっても、その時のこと�이忘れられない。今ではその友人が言ったことの方がより本質的で、正しい認識なのではないかと思える。

このように視点を変えてみれば、科学・技術、学問、芸術、芸能など現代の文明や文化のなかで、被支配階級とりわけ「賤民」によって切り開かれ、その血と汗によって築かれてきたものがどれほど多いことだろう。NHKの大河ドラマによってたたき込まれてきた「為政者史観」は、その一つ一つを洗い直す必要がある。

さて、ようやく春が来たようだ。寺院の日本庭園の美しさにウットリしながらも、念頭に置きたいのは、この造園技術をなしたものは將軍や高僧たちではなく、中世市民社会における被差別民たちであったということだ。庭石一つ、樹木一本の配置や水の流れに「美」と「土木工学技術」を凝らしていったのである。今、格差社会の広がりの中で、人びとは底辺へ底辺へと追いやられているが、そもそもこの社会を創りあげてきたのは下層の民だったのだと胸を張って言いたい。

(※) 江戸後期に西洋医学が輸入されるまでの東洋医学は、人体の構造をあまり重要視せず、独自の体系をもつものである。最近では東洋医学の漢方薬や針の効果を科学的・解剖学的に解明する動きもあり、期待したい。私自身も体質改善のために漢方薬を服用している。

(朽木野リン)

三里塚の産直野菜

頗もし野菜、ヤーコン



見た目はさつま芋に似ているヤーコン。関西ではあまり馴染みがない？ 産直野菜便りには、「2004年から作付け。年に数回ほどしか出荷できません」と。腸内ビフィズ菌を増やし、腸の掃除にもなるフラクトオリゴ糖がいちばん含まれている頗もし野菜。生でサラダや漬物に、天ぷら、煮物の1品にもできる。

三里塚「産直野菜」は有機無農薬。毎週・

隔週、「お試しセット」あり。

[お問合せ] 0799-72-5242

メール : kanjitsu_mail@yahoo.co.jp



川柳

利秋

企みはバレた 完全黙秘する
出る時にノックをしたら皆笑う
ノック五回それが私の合図です
財布を拾う 監視カメラが作動中
吸い殻を拾う 神さま見てますか
ライオンになろう野菜は食べません
ワイン飲み川柳なんてどうですか
サングリア一気に飲んでフランソコ
三十二歳 年の差婚のトオルさん
高速バスのトイレの扉開かない
新幹線は向かいのホームから出ます
宮崎地震の翌日行ったスカイツリー
三度目の震えの後の返納だ
トランプに決めたアメリカ民主主義
ガザ所有 これがトランプ不動産

まい・しょっと



日本近海を回るクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス…。全長290メートル、約11万総トン。客室数1337室。(撮影：庄／3月13日、神戸市役所26階から)

投稿 福島・浪江町を訪ねて

東日本大震災、もう14年ですね。あの日の、あの時間は三宮にいて、みんながスマホを見ていたので、聞きました。大地震と大津波、私はガラケーでした。それから福島浪江町を何度も訪問しました。事前に予約し、浪江町役場に行きました。若い職員に震災のことをお聞きし、ていねいに教えてもらいました。東京での「平和美術展」の後にも訪問しました。「平和ツアーア」でも、福島に行きました。避難所の訪問や、平和行進のコースにもなっており、二度参加しました。10年ほど前の平和行進でよく歩きました。東京から、なにかの合唱団の人も参加していました。一度は、大雨の中の行進でしたが、まだ体力がありました。

浪江町は、震災後数年が過ぎていましたが、阪神淡路大震災の時のような様子でした。更地にもなっていないで、倒れた家がたくさんありました。福島で開催された平和美術展にも二度参加しました。

現在の浪江駅周辺は解体され、更地になっています。浪江町の駅も無人駅でコインロッカーもありません。開いているお店もほとんどありません。駅から20分ほど歩いた町役場のあたりは、スーパーとか住宅や学校があります。途中の家もほとんど無人です。

車は走っていますが、工事用のトラックが多いです。歩いている人は、ほとんどいません。町役場の近くの道の駅で、いつも浪江焼きそばを食べました。キャベツの代わりにモヤシが入っています。とても美味しく、気に入っています。コロナ前は宮城県も訪問しました。

半鐘を打った女が流される 利秋

その現場、防災センターも訪問しました。多くの人が津波に流れました。マイクで避難を訴えた若い職員が流されました。懸命な悲痛な訴えに、地域の人は必死で避難しました。歩道橋に逃げて津波から助かった人もいました。その歩道橋の下を、知り合いが流されていったと聞きました。(りしゅう)

インフォメーション

■4月6日(日)

政治の野蛮化にいかに抗うのか

— 極右 AfD の倍増とドイツ左翼党の挑戦

時間：午後1時半～

会場：ひと・まち交流館 京都 第5会議室

参加費：500円

講師：木戸衛一（大阪大学招へい教授）

主催：ルネサンス研究所・関西研究会／反戦・反貧困・

反差別共同行動

連絡先：090-3267-4278（新開）

■4月12日(土)

〈神戸港 平和の碑〉の集い 2025

時間：午後2時半～2時45分 石碑前で集会

2時50分～4時半 勉強会

会場：KCCビル10階

（華僑歴史博物館のあるビル）

テーマ：「神戸港 — こぼれた歴史を拾って —」

講師：堀内稔（むくげの会）

主催：神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行
を調査する会

連絡先：078-891-3018

■4月12日(土)

EXPO2025 TALK SESSION

万博のツケは誰が払う！？

時間：午後2時～5時

会場：大阪私学会館4F講堂

（大阪市都島区網島町6-20）

JR東西線大阪城北詰駅から徒歩2分

登壇：木下功／森山高至／西岡研介／吉弘憲介／松本 創

参加費：1500円 チラシ・画面表示1200円 高校生・大学生500円

主催：Future OSAKA 大阪の未来をつくる市民ネットワーク
ネット視聴申込み→<https://x.gd/Z4TrR> 配信料 1000円